

あなたがたのための

主任司祭 吉池好高

二月二十六日の灰の水曜日をもって、今年も四旬節を迎えています。典礼歴のこの季節、特別な思いをもって、わたしたちの主イエス・キリストの十字架の死から復活への過ぎ越しの神祕に心を向けましょう。

そのためにも、この季節の典礼において記念される神祕のいわば傍観者としてではなく、わたしたちの信仰者としてのいのちに関わる、これ以上に神の愛の神祕に深く招き入れられる恵みを願う求めたいと思います。ミサの中心部である聖変化の祈りにおいて、司式司祭は最後の晩餐の主のこばを復唱します。それは、言うまでもなく司祭個人のことばではなく、主ご自身のことばとなるのです。こうして、このことばが指し示すホスチアのパンは主の御体となるのです。主の食卓を囲むわたしたちは、主の御体、御聖体を拝領することになります。わたしたちが拝領する御聖体は、聖変化の主のことばが指し示しています。この主の過ぎ越しの神祕に与るわたしたちは、最愛の御子さえも惜しまず世にお与えになった御父の愛に養われるので

す。

ミサの信仰宣言において、わたしたちは神の御独り子わたしたちの主イエス・キリストへの信仰を告白し、次のように唱えます。「主はわたしたち人類のため、天から降り、聖霊によって、乙女マリアより体を受け、人となられました。主はポンティオ・ピラトのもとで、わたしたちのために、わたしたちの救いのため十字架につけられ、苦しみを受けられ、葬られ、聖書にある通り、三日目に復活し、天に昇り、父の右の座についておられます。」

このような信仰のうちに生きる、わたしたちにとつて、福音書に語られている神の子イエス・キリストの御生涯はすべてわたしたちのためのものであったのです。わたしたちの主イエス・キリストは、わたしのすべては、あなた方のためだと言われ、そのような主に応えて、「主よ、あなたは、あなたの神の子としてのいのちのすべてを、わたしたちに与えてくださったのですね」とお答えするのが、わたしたちの信仰ではないでしょうか。